資料２

ヘルプカードの作成（例）

１．「ヘルプカード」とは

各市町村や障害者団体等において、災害時や日常生活の中で困ったときに、適切な対応を周りの人に知っていただくために作成されているものです。「ヘルプカード」の他に、「助けてカード」「ＳＯＳカード」などの名称で作成されています。

２．作成にあたっての注意

（１）個人情報が記載されるので、項目は必要最小限にする。
（２）名刺サイズにしたり、折りたためるようにして、所持しやすいようにする。
（３）携帯の方法は、個人の特性に応じて、名札ケースに入れて首にかける、ポケットに入れる、かばんや財布に入れるなどの検討をし、もしもの時には、確実に提示できるようにする。
（４）必要に応じて、与薬欄を広げたり家族の連絡先を追記したりすることも検討する。

３．個人情報の取扱い

（１）ヘルプカードの趣旨と個人情報流出のおそれ（紛失時等）について理解を得ながら、要援護者本人、その家族と支援者で作成する（全ての項目を記入しなくてもよい）。
（２）紛失した場合に備え、連絡先をどこにするかを検討し、カードに記入しておく。

４．　ヘルプカード（ひな形）　　※名刺サイズ

顔写真

ヘルプカード

（私には裏面のような支援が必要です）

氏　名　　山武　太郎

生年月日　　年　　月　　日

住所　千葉県△△市　　**緊急連絡先℡**　　－　　－

所属（利用施設）　○○○学校　　**℡**　　－　　－

医療機関（主治医）　□□□□□病院（☆☆先生）

℡　　－　　－　　**血液型**　Ｏ型　RH(－)

障害・疾病等　身体（　視覚　）、知的、精神、発達、高次脳、認知症、寝たきり高齢者、難病（　　）、その他（　　）

私に必要な支援

○

○

○

※障害・疾病等の特性や具体的な支援内容について記入

与薬の種類

「　　」を１日(　)回／１回(　)錠・包・mg／食前・後

「　　」を１日(　)回／１回(　)錠・包・mg／食前・後

「　　」を１日(　)回／１回(　)錠・包・mg／食前・後

アレルギー　そば　　**既往症**　合併症など

受身の姿勢では自分の命は守りきれません。
自発的に身を守る方法として携帯してください。

《表面》　　《裏面》

（裏面「私に必要な支援」の記入例）

※障害・疾病等の特性や、具体的な支援内容について記入する。

○　□□障害があり、会話を理解したり話を正しく伝えたりすることが苦手です。
指示や予定を文字や表にすると、よくわかります。

○　てんかん発作があり、発作が起きたときには体を横にして、けいれん発作が５分以上続いたら医療機関に搬送してください。

○　☆☆を持っていると落ち着きます。普段は△△と呼ばれています。

○　認知症があり、必要量以上に食べることがあります。